

和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	情報処理
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	生物応用化学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	できるWord&Excell2013 Windows8/7対応 (インプレスジャパン)、K-SEC情報リテラシー教材				
担当教員	楠部 真崇				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを用いて、実験レポートなどの資料を作成できる。(D)</li> <li>・インターネットを利用して、資料作成に必要な情報を収集できる。(D)</li> <li>・情報社会において守るべきモラルを説明できる。(A)</li> </ul>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
課題	指定様式の内容を理解し、ワード、エクセル、パワーポイントを用いて、適切に作成することができる		指定様式の内容をある程度理解し、ワード、エクセル、パワーポイントを用いて、書面を作成することができる		指定様式について、指示通りの書面を作成することができない
提出物	図表の挿入、キャプションの配置等を適切に行うことができる		図表の挿入、キャプションの配置等をある程度適切に行うことができる		図表の挿入、キャプションの配置等を行うことができない
学科の到達目標項目との関係					
JABEE A JABEE D					
教育方法等					
概要	情報処理教育演習室において、パソコンを使った実技演習および情報社会に関する講義を行う。				
授業の進め方・方法	基礎実験で実施した内容について、レポートを作成する。指定様式での書面作成を目的とし、読みやすく間違いのない提出物を作成する。 レポート内容については、基礎実験担当者と相談しながら、指導内容を随時確認し実施する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	情報処理教育センターの利用方法	
		2週	演習 インターネット (1)	Aメール、moodleの登録	
		3週	演習 インターネット (2)	wwwの利用・情報の検索方法	
		4週	演習 エクセル (1)	データ入力と表の作成	
		5週	演習 エクセル (2)	データ入力と基本的なグラフの作成	
		6週	演習 ワード (1)	実験レポート (目的、操作) の作成	
		7週	演習 ワード (2)	実験レポートの書式の調整	
		8週	演習 エクセルとワード	docファイルへの表、グラフ、写真の挿入	
	2ndQ	9週	情報リテラシー	実験レポート評価と個人の責任	
		10週	演習 ワード (3)	実験レポートの作成	
		11週	演習 エクセル (3)	グラフの作成とdocへの挿入	
		12週	演習 実験操作図の作成 (1)	ワードでの作成	
		13週	演習 実験操作図の作成 (2)	パワーポイントでの作成	
		14週	演習 実験操作図の作成 (3)	実験レポート作成	
		15週	演習 実験操作図の作成 (4)	実験レポート作成	
		16週	演習 実験操作図の作成 (5)	実験レポート作成	
後期	3rdQ	1週	演習 実験操作図の作成 (6)	実験レポート作成	
		2週	演習 プレゼンテーション (1)	プレゼンの極意 (文書とプレゼンの相違点)	
		3週	演習 プレゼンテーション (2)	配色、図の挿入、文字列の挿入	
		4週	演習 プレゼンテーション (3)	情報リテラシーとオリジナリティの両立	
		5週	演習 プレゼンテーション (4)	最終調整、原稿作成	
		6週	演習 プレゼンテーション (5)	プレゼン (未知試料溶液の分析)	
		7週	プレゼンの影響と課題	講評と技の例	
		8週	演習 ワード (4)	数式エディタとギリシャ文字の入力	
	4thQ	9週	演習 エクセル (4)	表のある文書の作成	
		10週	演習 文書作成 (4)	図のある文書の作成	
		11週	情報社会におけるスマホの活用	便利なアプリケーション	
		12週	演習 実験レポートの作成 (1)	デジタルレポートの作成	
		13週	演習 実験レポートの作成 (2)	デジタルレポートの作成	
		14週	演習 実験レポートの作成 (3)	デジタルレポートの作成と提出	
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	数学	数学	数学	1次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差を求めることができる。	3	前4,前5
				2次元のデータを整理して散布図を作成し、相関係数・回帰直線を求めることができる。	3	前4,前5
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	前2,前3
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	前2,前3
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	前2,前3
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前2,前3
				情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	前11
				論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3	前11
	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3	前11
				情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	3	前3
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	後11
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	後11
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している。	3	後11
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	後11
書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。				3	後12	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後12	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後12	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後12	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後12	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後13	
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	後13	

評価割合

	課題	提出物	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	25	25	50
専門的能力	25	25	50